活動報告 青少年育成廿日市市民会議

自立心や人間同士のふれあいを大切にする心を育てる
廿日市市住吉２丁目2-16　廿日市市市民活動センター内
〈会長〉後藤香代子　〈主な活動〉青少年の健全育成に関わる活動

10組の家族の花が美しく咲き まわりを優しく包みました

10組の仲良し歌うこと大好き家族が集まりました

家族そろって歌合戦

2月18日、小雪のちらつく寒い日でしたが、さくらぴあ小ホールは出場する10組の家族と応援する人たちで、熱気ムンムンでした。主催者としては、何しろ初めての経験で、はたして観客が集まるのだろうかと、少々不安な思いでしたが、FMはつかいちの大田典子さんの司会で始まった定刻には、ほぼ満席状態でした。

アトラクションの、くさのみ福祉会青年教室レッドタイのハンドベルの優しい音色は、歌合戦の雰囲気づくりに充分。会場には協力団体の廿日市文化協会のスタッフが手間ひまかけて作った「家族そろって歌合戦」のタイトルと、動物たちや花で飾られた素敵な舞台。いよいよ、歌合戦のはじまりです。

10組の家族は、当日出演順をくじ引きで決め、チーム名もそれぞれ工夫を凝らし、「Li BERTY」「きゃりーミルミル」「加齢なる一族」「かぼす」「オレノグラフィティ」など、個性あふれるものでした。

個性あふれる家族が登場！

東日本大震災の起こった3月11日以来、日本中が家族の絆や大切さ、命の重みについて考えました。家族が一緒に歌うことで、改めて家族の絆を確かめたり、久々に家族が集まる機会になるのではないか。歌が大好きな家族が歌えば、見ている人たちにも元気が与えられるのではないか。家族そろって歌合戦に決まるまでには、そう時間がかかりませんでした。実際、東北地方にエールを送ったチームもありました。

4世代に渡って出演したグループや、93才のおばあちゃんの出演もあり、とにかく皆さん歌が大好きで、舞台に立つことを楽しんでおられました。そして、それは聴く人の心を打ちました。

家族の笑顔が決めてです！

順調にプログラムは進んで審査になりました。その間に、審査員でもある藤咲真介さんのオカリナと、音楽仲間の寺本隆さんのウクレレにより心を洗われ、いよいよ審査結果の発表です。

総評では、「どのチームも上手で、審査員泣かせだった」「賞に入らなかったとしてもレベルは変わらないと思ってほしい」との前置きがあった上で、次のように話されました。

「ポイントは、家族そろって歌合戦で、のど自慢ではないということです。出演者が楽しんでいたか、来場者にも楽しんでいただけたか。選曲により家族がどういう役割分担をしたか。そして、ハーモニーはうまれていたか。何より大切なのは、笑顔です」以上の視点から、５つの賞が選ばれました。

最後になりましたが、審査員の皆さんをはじめ、共催、協力いただいた、廿日市ライオンズクラブ、廿日市市市民活動センター運営協議会、廿日市市文化協会、廿日市市合唱連盟の皆さんに厚く御礼申し上げます。

廿日市市でたったひとつの ふれあいスキー教室！ 今年も開催！

強い寒波が押し寄せた1月29日の午前7時30分、期待と不安に胸踊らせて、一行は廿日市市役所を出発。一路、ユートピアサイオトスキー場（山県郡北広島町才乙）へ。

実は、ふれあいスキー教室は、一昨年までは吉和を会場に行っていました。しかし、積雪量の心配があり、急遽取り止めになることもありました。そこで、市民会議吉和支部の人たちに相談して、指導はこれまで通り廿日市市スキー連盟の人たちにお願いし、ユートピアサイオトで交流を図ることにいたしました。

約2時間、吉和からのバスも同じ頃に到着して、総勢70名で開校式。主催の市民会議と、指導いただく廿日市市スキー連盟吉和支部の皆さんから、事故なく楽しく過ごしましょうとの挨拶の後、スキー教室が始まりました

参加した子どもたちは全員初心者か初級者。その中でも経験などを考慮し、3つのグループに分かれ、それぞれにスキー連盟の指導者がつき、高校生のボランティアも加わってスタートしました。

初めてでも滑るように

初めてスキーを履くグループは、まず雪に慣れて、それから片足だけでスキーを履いて滑ってみる。慣れてきたら両足履いてカニ歩き。そして、少しだけ斜面を使ってゆっくり下りてくるという練習を繰り返しました。子どもって素晴らしい！午前中の練習が終わる頃には、ずいぶん上達。未経験者だからといって心配はありません。きめ細かな指導で、必ず滑れるようになります。滑れなかったらどうしようかなと思っている子どもたち、次回は是非参加してほしいです。

初めてでも、すぐに慣れ

一方、経験者グループは、リフトで上へ。吉和の子どもたちの多くもこのグループに加わって、スイスイと滑っていました。

笑顔いっぱいの参加者たち

また参加したいと嬉しい声が

午後から雪が激しく降りだしたなか、自主練習をする人、もっとレッスンを受けたい人とに分かれました。この時間で、まったくの初心者だった人も滑れるようになり、その後の自由時間では親子でスキーを楽しむ姿や、初対面の子どもたちが、仲良くおしゃべりする場面も見られました。

「初めてのスキーで大丈夫かなと思ったけど、丁寧に教えてもらって滑れるようになって良かった」「まだうまく止まれなかったけど、楽しかったから来年もまた参加したい」という子どもたちの声に、主催者一同うれしく思っています。そして、指導者の方が、子どもたちのレベルに合わせてとても丁寧に指導してくださったことに、感謝の気持ちでいっぱいです。

また、サイオトでの教室も二回目とあって、レンタルのトラブル等もなく、スキー場のスタッフの方にも大変お世話になりました。

お陰様で事故なく楽しく、予定よりも早く家路につくことができました。来年も安心してたくさんの子どもたちが参加することを願っています。

（後藤香代子）